



昭和医科大学横浜市北部病院

地域医療連携

医療機関向け ニュース

No.32

2026年10月号
(年4回発行)

発行/地域医療連携室

〒224-8503
横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1
電話：045-949-7151



● 最新事情 緩和医療 / 腎デナベーション（腎交感神経焼灼術）（中面）

● 北部病院からのお知らせ（裏面）

緩和医療

最新事情



左から
緩和ケアセンター / 特任教授
おかもと けんいちろう
岡本 健一郎
緩和医療科診療科長 / 准教授
にしきど おさむ
西木戸 修
緩和医療科診療科長補佐 / 講師
もちつき けんいち
望月 健一
緩和医療科助教
やまだ さよこ
山田 佐世子

2026年5月から新体制となり、4人体制となったことでより充実した診療を行っています。

緩和ケアセンター

緩和ケアセンターは2019年にセンター化され、緩和医療チーム、緩和医療外来、がん看護外来と西棟1階病棟の管理運営を行い、がんと診断された時から患者さんとそのご家族の苦痛緩和に当たっています。

緩和医療科 診療実績

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
平均入院日数	18.6	25.8	22.9	27.1	28.9
病棟稼働率 (%)	70.6	71.5	67.6	70.6	76.7
入院患者数	253	267	281	268	108
内 訳	予定入院	18	56	89	52
	緊急入院	4	8	14	38
	他院から転院	85	79	75	82
	転 棟	146	124	103	96
緩和ケアチーム	187	187	251	236	49

2026年度は、4月～7月の実績です

西棟1階病棟

緩和ケア病棟はより多くの患者さんに利用して頂くために「西棟1階病棟」に名称変更しました。入院患者さんの多くは、がん患者さんですが様々な苦痛症状（がん疼痛、呼吸困難、悪心・嘔吐、せん妄など）を全人的苦痛の観点でとらえ、薬物療法やケアを中心に症状緩和を行い、そして療養環境の調整を行い、退院を目指しています。末期腎不全患者さんの受け入れは入院基準がありますので、入院をご希望される際にはご連絡をお願いします。

院内からだけでなく、他の病院、がんセンター、診療所からもご紹介を受けています。日本全国、緩和ケアが必要な患者さんもお引き受けします。遠方の親戚を呼び寄せたく困っているご家族さんがいましたらご相談ください。ご本人を一時的に西棟1階病棟に入院して頂き、患者さん本人、家族が安心して過ごせる環境を提供します。

レスパイト入院もお受けします。患者さん本人は入院して、介護者に休養して頂くことも可能です。

緩和医療チーム



緩和医療チームは、医師、看護師、薬剤師、メディカルソーシャルワーカー、管理栄養士で構成されています。一般病棟での緩和に関する支援や外来通院患者さんに対する症状コントロール等を担当しています。腎不全・心不全・慢性呼吸不全は、各診療科と連携して中央棟一般病棟で症状緩和しています。

緩和ケア入院相談外来

西棟1階病棟へ入院するためには、入院前に「緩和ケア入院相談外来」を受診していただく必要があります。受診の手続きをご説明します。

1. 現在の医療機関から紹介状を作成して頂きます。

※紹介状は、当院ホームページのトップページの「専門外来」内の「緩和ケア入院相談外来」にある「緩和ケア外来診療情報提供書」をご使用ください。

2. 紹介状を地域医療連携室あてにFAX (045-949-7137) 送信の上、地域医療連携室 (045-949-7151: 直通) へお電話ください。緩和ケア入院相談外来の予約をお取りいたします。

※予約状況は、ホームページのトップページ「昭和医科大学横浜市北部病院PRESSROOM」の「緩和入院相談外来予約状況」をご参照ください。

緩和ケア入院相談外来（予約制） ※ご家族のみの受診でも構いません
月曜日から金曜日 午後1時30分～：2枠

緩和医療における地域との病診連携や病病連携を推し進めております。相談等ありましたら「がん相談支援室」まで遠慮なくご連絡ください。

腎デナベーション（腎交感神経焼灼術）

— 薬物療法だけでは血圧管理が困難な患者さんへの新たな治療選択肢 —

高血圧は最も頻度の高い疾患であり、未治療を含めると日本には4,300万人が高血圧であると推定されていますが、適切な血圧に管理、治療されている患者はその3割程度と考えられており、この数字は先進国の中で下位です。また、降圧薬3種類以上を使用しても目標血圧を達成できない難治性高血圧症例は1～5%程度存在します。高血圧は一般的に無症状ですが、脳・心血管疾患（脳卒中、狭心症、心筋梗塞、大動脈瘤、等）の重大な危険因子であり、管理不十分な高血圧の存在は死亡リスクを増加させ、健康寿命を大幅に短縮させる可能性が示されています。有名な久山町研究では、軽度の高血圧でも認知症のリスクを4倍以上高めることが報告されており、高血圧の積極的な治療、管理は、脳・心血管疾患の予防、寿命の延長だけでなく、人生後半のQOL向上の大きな鍵と考えられています。

難治性高血圧の原因は様々ですが、交感神経系の亢進が大きな役割を果たしていることが明らかにされています。今春、保険適用となった「腎デナベーション（腎交感神経焼灼術：RDN）」は腎動脈周囲を走行する腎交感神経をカテーテル治療によって遮断し、過剰な交感神経活動を低下させることで血圧を下げる血管内治療です。RDNは、熟練した血管内治療のエキスパートが実施する侵襲的な治療であるために厳格な治療適応が定められ、実施施設にも認定制度があります。本院は、神奈川県で初めての認定施設となり、8月には同県初の治療例を実施しました。

RDNの実際

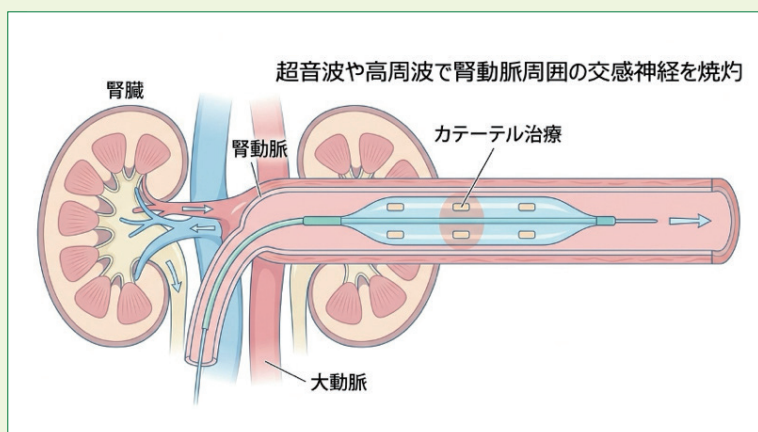
RDNは、腎動脈の周囲を走行する交感神経をカテーテルで焼灼し、その過活動を抑えることで血圧を下げる、高血圧に対する新しいカテーテル治療です。高血圧の発症・維持には交感神経の過活動が関与しており、この神経活動を減弱させることで降圧効果が得られます。2026年3月に本邦で保険適用となりました。当院では、国内初の超音波式である「Paradise（パラダイス）超音波式腎デナベーションシステム」を用います。超音波を発するバルーンカテーテルを腎動脈内に留置し、腎動脈周囲の交感神経を全周性に焼灼します。

期待される効果と位置づけ

複数の無作為化シム対照試験で降圧効果が示されており、診察室収縮期血圧が平均で10mmHg程度低下することが報告されています。服薬アドヒアランスに左右されず、24時間にわたって持続的な降圧が期待できる点が特徴で、特に早朝高血圧・夜間高血圧の改善が期待されます。同治療後には、降圧薬の減量、中止も可能となり、薬剤アドヒアランスの向上、医療経済への好影響が期待されています。既存の降圧薬を完全に置き換えるものではなく、既存の生活習慣修正・薬物療法を補完する治療と位置づけられています。

治療の実際

局所麻酔下到大腿動脈（太ももの付け根）からカテーテルを挿入し、鎮静・鎮痛を併用して腎動脈内で焼灼を行います。入院期間は数日程度です。適応評価から治療、術後の長期的な血圧管理までを、カテーテル治療医、循環器専門医、高血圧専門医に加え、看護師、薬剤師、管理栄養士からなる多職種チームで一貫して担当いたします。



治療適応

適正使用指針に基づき、以下を満たす治療抵抗性高血圧の患者さんが対象となります。

- 利尿薬を含む異なる系統の3剤以上の降圧薬（利尿薬以外は原則最大忍容量）を用いても、血圧が目標に達しない
- 診察室血圧140/90mmHg以上、かつ家庭血圧または24時間血圧（ABPM）でも高値
- 二次性高血圧が除外されている（未検の場合は当院で精査可能です）
- eGFR 40mL/min/1.73m²以上で、腎動脈に治療上の解剖学的問題がない

実際の適応は、当院で二次性高血圧の除外、服薬状況・血圧の再評価（ABPM／家庭血圧）、腎動脈の画像評価などを行ったうえで、多職種チームで慎重に判断いたします。適応外と判断された場合でも、降圧治療の最適化について一緒に検討させていただきます。

ご紹介のお願い

複数の降圧薬を用いても血圧のコントロールにお困りの患者さん、服薬アドヒアランスや薬剤の副作用でお悩みの患者さんがいらっしゃいましたら、気軽に当院の循環器内科（担当医：大倉、岡部）、内科（担当医：緒方）へご相談下さい。

循環器内科 岡部 俊孝、内科（腎臓）緒方 浩顕

北部病院からのお知らせ

1 潰瘍性大腸炎・クローン病の専門外来を開設しました

消化器センターでは、潰瘍性大腸炎・クローン病の専門外来を開設いたしました。診断・病状評価から、生物学的製剤やJAK阻害薬を含む治療の導入・見直し、狭窄・瘻孔などの合併症管理、大腸がんサーベイランスまで、長期にわたる診療を地域の先生方と連携して支えます。カプセル内視鏡やバルーン内視鏡による小腸精査、内視鏡的バルーン拡張術、ESDにも対応し、検査のみのご依頼も承ります。確定診断前の段階でもご相談いただけます。ご紹介は地域医療連携室（TEL 045-949-7151、月～土 8:00～17:00）までご連絡ください。

2 地域医療連携フォーラムの開催について

次の「第37回地域医療連携フォーラム」は、2026年11月25日（水）に開催します。会場は新横浜グレイスホテルを予定しています。開催日が近づきましたら、当院ホームページやチラシでご案内させていただきますので、ご参加のほど、お願い申し上げます。

3 病診連携研修会の予定

名 称	内 容	日 時	開催場所	担当医師等・連絡先
第61回 都筑区小児科医会と 昭和医科大学横浜市 北部病院との 連携勉強会	症例報告・講演	10月9日（金） 19:30～21:00	北部病院 中央棟9階 大会議室	こどもセンター 渡邊 常樹 tsuneki5@med.showa-u.ac.jp
2026年度 第2回横浜市北部 緩和ケア研修会	事前 e-learning 及び集合研修	10月18日（日） 8:30～17:00	北部病院 西棟4階講堂	管理課 緩和ケア講習会担当 笠原 nhkanri@ofc.showa-u.ac.jp 045-949-7108
横浜北部 産婦人科 地域勉強会	「産婦人科医も知って 欲しいメノポーズ ハンド：更年期以降 に頻発する手指の痛 みやしびれ」	10月19日（月） 18:45～20:00	北部病院 西棟4階講堂	産婦人科 市塚 清健 ichizuka@med.showa-u.ac.jp 産婦人科 大場 智洋 tomo008hero@med.showa-u.ac.jp
都筑区内科医師会と 昭和医科大学横浜市 北部病院との 地域連携勉強会	講演	10月23日（金） 19:30～20:30	北部病院 西棟4階講堂	内科 加藤 雅典 （内科秘書 河野 晴美） haru-k@med.showa-u.ac.jp

4 祝日の対応（2026年）

日付		曜日	休日名	診療状況
10月	12日	月	スポーツの日	※救急対応を原則とし、救急、初診、紹介、並びに通院中の方で 状態変化による臨時再診をお受けします。 ※紹介状がない場合は時間外選定療養費（11,000円）が 別途発生いたします。
11月	3日	火	文化の日	
	23日	月	勤労感謝の日	

※来年1月11日（成人の日）も同様の対応になります。